

第4回町田市文化プログラム実行計画策定検討委員会 議事要旨

日時	2017年10月10日（火）午後6時～8時
会場	町田市役所 10階 会議室 10-4・5
出席者	<p>■委員 香取幸一委員長、西田司副委員長、三上豊委員、岡田万里子委員、松香光夫委員、米増久樹委員、大久保明委員、仕田佳経委員、高野賢二委員</p> <p>■事務局 文化スポーツ振興部 能條、小田島 文化振興課 清水、戎谷、鈴木</p> <p>■運営支援 株式会社丹青研究所</p>
資料	資料1 町田市文化プログラム実行計画（素案）

会議内容

1. 第1回から第3回検討委員会までの振り返り

*事務局から前回までの主な意見等を説明し、振り返りを行った。

2. 議事

(1) 町田市文化プログラム実行計画（素案）の検討

■意見交換等

委員： 市民企画公募について補助金等を検討しているのであれば、市が想定している取り組みのスケール感を示す必要があるだろう。

事務局： 公募企画には補助金を検討中ではあるが、対象として大規模な取り組みは想定していない。

委員： 町田市文化プログラムとしては、小規模ではあるが公益性のある取り組みを支援できるとよいだろう。

委員： 「まちだ^{まる}〇ごと大作戦 18-20」に関連し、取り組みの提案が行われているが、町田市文化プログラムとして展開可能なものが出ているのか伺いたい。

事務局： 「まちだ〇ごと大作戦 18-20」では、これまで2回ワークショップを開催しており、そこでの提案内容の半数以上は町田市文化プログラムに該当しそうな、文化的な取り組みである。
これまで説明してきたとおり、「まちだ〇ごと大作戦 18-20」の中で提案された文化的な取り組みについても、町田市文化プログラムの認証対象として展開していきたいと考えている。

委員： 既存事業発展型では、加えるべき新たな取り組みについて、具体を示すとよいだろう。町田市文化プログラムを複数年度にわたり展開するのであれば、年度ごとの認証件数を示したり、実施時期の偏りがないように公募を行う必要があるだろう。

委員： 認証の公平性を確保するため、審査委員会等の設置が必要だろう。

事務局： 公平性を担保するため、年に数回の応募期間を設け、それに準じた審査会等の開催が必要になると考えられる。認証されたプログラム

に対する補助金等のあり方も合わせて、「まちだ〇ごと大作戦 18-20」と調整しながら、検討を進めたい。

委員： 一般市民にも応募しやすい申請のあり方を検討する必要がある。

事務局： 認定基準等とあわせて、今後、検討したい。

委員： 実行計画のなかで、一般市民にもわかりやすく、町田市文化プログラムの必要性を説く必要がある。継続性を視野に入れ、町田市の遺産や宝を創出するような取り組みであり、一過性のものではない、という方向性を説明する必要があると思う。
また、町田市文化プログラムと「まちだ〇ごと大作戦 18-20」との関係性を示すことで、応募者がどちらの事業に応募すべきなのか判断しやすくする必要があるのではないかと。

事務局： 「まちだ〇ごと大作戦 18-20」における文化的な取り組みは、町田市文化プログラムであることを、十分に伝えていく必要がある。また、「まちだ〇ごと大作戦 18-20」のなかの文化的なプログラムについても、東京 2020 参画プログラムの認証マークの取得を推進するなど、検討していきたい。

委員： 「まちだ〇ごと大作戦 18-20」のなかの文化プログラムについて、排他性を持たせる想定でいるのか伺いたい。

事務局： 町田市における文化プログラムの展開としては、「まちだ〇ごと大作戦 18-20」も町田市文化プログラムも、大枠は一つのものとした方がよいのではないかと考えている。

委員： 実行計画のなかで、「まちだ〇ごと大作戦 18-20」における文化的な取り組みを町田市文化プログラムとするなどと、明記してはどうか。「まちだ〇ごと大作戦 18-20」でも、応募の際には審査が想定されているのか伺いたい。

事務局： 審査のあり方についても、「まちだ〇ごと大作戦 18-20」と調整を図りたい。

委員： 施設の優先予約など、実施場所の確保についてもインセンティブを設けてはどうか。インセンティブとして設定するには課題も多いかと思われるが、応募者にとっては実施場所の確保が最も重要である。

事務局： 公募を行う際には、通常では難しい場所も含めて調整し、場所の提供について、インセンティブとして示せるよう検討していきたい。

委員： 応募対象となる取り組みの規模を、示す必要があるだろう。また、どのようなレガシーを創出するかなど、認証の基準についても明確にする必要がある。
また、補助金を取得する際には、申請や報告書作成など、管理力や組織力が必要となる。その他、収益の可否など、市の規定等もふまえながら、市民が応募しやすいあり方を検討する必要がある。

事務局： 補助のあり方や認証基準等については、今後検討していきたい。

- 委員： フェスタまちだ 2017 では、東京 2020 応援プログラムとして認証を得た。事務局内では認証取得に消極的な意見もあった。町田市文化プログラムにおける個々の取り組みは小規模であっても、ある一定期間に市内各所で集中的に実施することで規模感を出すことができるのではないかと。また、そのために、一定期間に市内の施設等を確保し、インセンティブとして提供するという方法も効果的と思われる。また、中心市街地の活性化という点では、シバヒロの活用が必要ではないかと。ある期間、特設ステージを設け、町田市文化プログラムの実施場所として提供することで、参加団体も増えるのではないかと。
- 事務局： 認証取得の効果は、現時点で実感しにくいと考えられる。認知度の向上等も含めて、今後の検討としていきたい。また、特設ステージの設置案についても、可能な限り実現できるよう検討したい。
- 委員： 所管が文化スポーツ振興部ではないかもしれないが、ぜひとも庁内で検討いただきたい。
- 委員： 町田市文化プログラムとして、学校との連携など、教育的な視点を取り入れてはどうか。また、市民企画公募について広報する前段階として、町田市の文化的状況について情報発信し、町田市の文化的状況について市民が意識するきっかけをつくる必要があるのではないかと。
- 事務局： 教育的な視点については、直接的な表現ではないが基本方針の中に含まれていると考えている。また、文化的な状況について市民が意識する機会の創出など、広報ツールの工夫を図りたい。
- 委員： インセンティブとして、通訳など言語に関するサポートを加えた方がよいだらう。
- 事務局： 検討していきたい。
- 委員： 具体例については、基本方針にぶら下がる形で示すとわかりやすいのではないかと。応募者にとって、自分たちの取り組みは、どの基本方針に即しているのかを意識しやすくなるだろう。
- 事務局： わかりやすい表記となるよう検討したい。
- 委員： 申請しやすい表記としてはどうか。
- 委員： 基本方針を意識した表記とすることで、応募者にとって「まちだ〇ごと大作戦 18-20」との棲み分けもしやすくなるのではないかと。
- 委員： 夜間に実施される取り組みも想定される。また、「福祉のまち町田」というブランド力を生かし、「人に優しい」という視点に着目した取り組みを想定するなど、誰もが応募しやすい取り組みであることを示してはどうか。
- 委員： 具体例では「音楽フェスティバルのなかのノーマライゼーションに即した取り組み」など、認証される要素が伝わるようなプログラム名称を表記すると、市民がイメージしやすいのではないかと。

委員： 街灯に掲げるフラッグを作るという文化プログラムの場合、フラッグに東京 2020 参画プログラムの認証マークを付記することができるのか伺いたい。

事務局： 確認する。

委員： 「まちだ〇ごと大作戦 18-20」とのあり方等について、今後調整いただきたい。

事務局： 本日のご意見をふまえて素案を修正し、各委員へメールにてご報告する。ご意見を再度いただき、最終調整は委員長と事務局に一任いただきたい。